様式２

大垣市立西保育園

令和５年度園評価

１．園の保育・教育目標

心も体もたくましく　生き生きと遊ぶ子

２．前年度園評価や幼児教育指導の方針と重点などを基にした、園経営の重点及び具体的方策

・健康な生活リズムが整うよう、各家庭の実態を把握しながらスモールステップで目標を立て、取り組む。
・ねらいをもった遊びの設定や環境の再構成など、週案会や園内研修においてＰＤＣＡサイクルを重ねる。
・継続的、組織的に一人一人の特性に応じた支援や援助ができるよう、アドバイザーや専門機関との連携を図る。
・通信や写真掲示を通し、園生活の中で「10 の姿」が生涯にわたって生きる力となることを、保護者に伝わる工夫をする。

３．評価項目の達成状況及び取組状況

短期目標	自己評価	保護者評価
(1)規則正しい生活リズムが身に付いたり、主体的に運動遊びに挑戦したりする。	３．６	３．７
(2)自分の命を守る意識をもって生活をしたり、係活動等で皆の役に立つ喜びを感じたりする。	３．４	３．７
(3)様々な活動に興味をもち、試したり、工夫したりする。	３．６	３．８
(4)相手の話に興味をもって聞いたり、自分の思いや考えを相手に話したりする。	３．６	３．８
(5)挨拶が進んで言えたり、良い事と悪い事の区別が分かり、ありがとうやごめんなさいを素直に言ったりする。	３．７	３．８
(6)できる事は頑張り、できない時は助けを借りて最後までやり遂げる。	３．９	３．８
(7)保育中の 10 の姿が生涯にわたって生きる力となることを、保護者に伝える。	３．３	３．７

４．自己評価結果の概要

○チャレンジカードの取組では、家庭で取り組めるような目標を取り入れたことで、親子でコミュニケーションを図りながら挑戦することができた。
○当番活動を取り入れたことで、役に立ちたい気持ちから頑張る姿が見られ、皆の役に立つ喜びを子ども自身が感じることができた。
○子どもの興味を探りながら楽しめるような玩具を作ったり、遊びに変化をもたせながら準備や環境構成を整えたりすることを心がけた。
○子どもの表情やしぐさから言葉で伝え返しをしたり、一人一人の話を聞く中で、うまく話せない子には代弁をしたりして、話すことの嬉しさや聞くとことの大切さを伝えた。
○巡回アドバイザーや専門機関と連携を取り合い、その子にあった支援方法を探りながら、園内研にて全職員で共有し学び合うことができた。
○子どもの姿からとらえた成長過程や気付きを週案に記入し、「10 の姿」から育ってほしい姿を明確にしたり振り返ったりしながら、次の保育に活かしていった。
○保護者のアンケートから、園生活の写真掲示を増やしたり、動画視聴を導入したりすることができた。

５．保護者による評価及び意見の概要

・園での様子や写真が今以上にあると、どのように一日を過ごしているのか、より分かる。
・担任以外の保育者が保育をしている時に怪我をし、担任は知らず保護者に伝わらないことがあり、不安に思った。子どもは怪我をするのは当たり前だと思っているが、首から上の怪我は万が一を考えてきちんと対応して欲しい。

６．評議員による評価及び意見の概要

・チャレンジ・リズムカードをもとに、生活リズムが整う取組が着実にできていた。
・園と家庭が、何を大切にして子どもを育てようとしているのか共通理解が見られた。
・兄弟が少ない現代なので、園で自分より幼い子をと関わる機会をもち、大切にしてほしい。
・子どもは無限の可能性をもっている。苦手意識を取り除き、やってみることが大切である。
・子どもたち一人一人が、災害時の行動について意識ができていた。

７．次年度に向けて

●カラダ遊びで学んだことを、その後の保育に取り入れていく。
●常日頃より、保育者は危険察知能力を身に付け、子どもの安全を最優先すると共に、怪我が起きてしまった時は職員間で状況や改善点を共有し、保護者にも的確に伝えるようにする。
●園経営計画に基づき、具体的な方策や取組指標を設定した園評価を行い、ＰＤＣＡサイクルを重ねる。
●園内研を活用し、一人一人の特性や発達段階を全職員で理解する。また、適切な支援や援助ができるようアドバイザーや専門機関との連携を図る。
●同じ言葉でも、保護者によってとらえ方の違いがあることを意識しながら、より丁寧な対応や言葉を選んで話すことを心がける。
●クラス便り以外でも、保護者に「10 の姿」を伝える方法を探っていく。
●定期的に園だよりや子どもの姿、献立などを配信する。